第３次大洲市総合計画
基本構想（案）

もっと、ずっと、大洲。
～肱川と人がつむぐ 住み続けたいまち～

目標人口変更箇所（11、12、13、16ページ）

変更前 30,000人　変更後 31,000人

令和８年７月13日

大洲市 総合政策部 企画情報課

基本構想の構成

第１編 はじめに

第１章　総合計画の策定にあたって
（策定の背景、計画の位置付けと役割）

第２章　総合計画の構成と期間
（計画の構成、計画期間）

第３章　まちづくりにおける問題
（問題点の抽出と整理）

第２編 基本構想

第１章　まちづくりの将来像
（まちづくりの考え方）

第２章　人口ビジョン

第３章　まちづくりの数値目標
（目標人口・まちづくり指標）

第４章　基本政策

第５章　基本構想の体系

第１編 はじめに

第１章 総合計画の策定にあたって
第２章 総合計画の構成と期間
第３章 まちづくりにおける問題

第１章　総合計画の策定にあたって

１　策定の背景

本市では、平成17年の合併により新大洲市が誕生し、個性的で魅力的なまちづくりを実現するため、「第１次大洲市総合計画」を策定し、新たな未来に向けたまちづくりをスタートさせました。平成29年には、「第２次大洲市総合計画」を策定し、「きらめくおおず～みんな輝く肱川流域のまち～」という将来像の実現に向け、さらなる発展に取り組んできました。

しかし、この間には、平成30年７月豪雨災害からの復興や新型コロナウイルス感染症への対応に加え、デジタルトランスフォーメーション（DX）の急速な進展や、人々の生き方・価値観の多様化など、社会経済情勢は激しく変容し、これまでの「対面・密集」や「一極集中」を前提とした仕組みの見直しをはじめ、場所や時間に縛られない新たな生活様式や、一人ひとりの多様なニーズに寄り添う柔軟な社会構造への転換が不可欠となっています。

また、深刻化する人口減少問題は、先送りの許されない喫緊の課題であり、減少の勢いを食い止める「抑制」の取組を加速させるとともに、将来的な人口規模の縮小を見据えたうえで、市民生活の質や地域経済の活力を維持・向上させていく「適応」の視点に立った、持続可能なまちづくりが求められています。

このような時代の変化に的確に対応し、市民のみなさんがこれからもずっと豊かさと幸せを実感できる暮らしを実現するため、市民・事業者・行政が一体となってまちづくりを進める「共創のビジョン」として、令和９年度を初年度とする「第３次大洲市総合計画」を策定します。

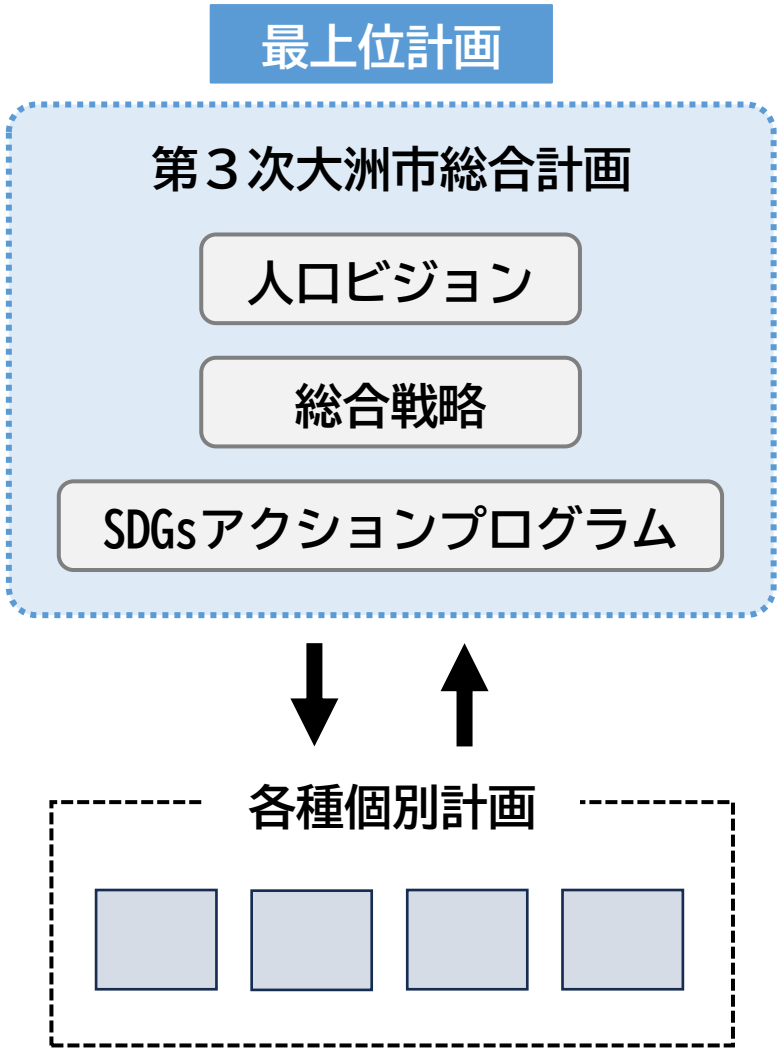
本計画では、これまでよりもさらに本市の個性と魅力を高め、次世代へ確実にバトンをつなぐまちづくりを目指すため、将来の人口規模を見据えた「人口ビジョン」をはじめ、「第３期総合戦略」や「ＳＤＧｓアクションプログラム」を一体化し、より効果的・効率的な運用を図ります。

第１章 総合計画の策定にあたって

２ 計画の位置付けと役割

本計画は、「大洲市総合計画の策定等に関する条例（平成27年大洲市条例第22号）」により本市のまちづくりの基本的な方向性を示す「最上位計画」として位置付けられています。

計画策定の段階から行政だけでなく、市民をはじめ市に関わる様々な人とともに、将来像や方向性を共有し、その実現を目指す「共創のビジョン」とします。



人口ビジョン

長期的視点で、現在までと今後の人口の見通しを整理し、目標人口を示す計画

総合戦略

人口ビジョンで示す目標人口を踏まえて、地域の特色を活かした地方創生に取り組むための施策をまとめた計画

ＳＤＧｓアクションプログラム

行政の機能だけでは限られた効果に留まるため、市民と一体となり、目標を達成できるよう「私たちの 私たちによる 私たちのための ＳＤＧｓ」を提言としてまとめた計画

第２章　総合計画の構成と期間

１　計画の構成

基本構想

計画期間
R9～R17(9年計画)

内包　人口ビジョン

将来像

＜数値目標／KGI設定＞
・目標人口
・まちづくり指標

基本政策

将来像を実現するための
政策を設定

施　策

＜数値目標／KPI設定＞

基本政策ごとに各期(3年間)に取り組む施策を設定

内包　まち・ひと・しごと創生総合戦略
ＳＤＧｓアクションプログラム

基本計画

1期3年
(3期9年)

目的・目標

政策評価

手段

目的

施策評価

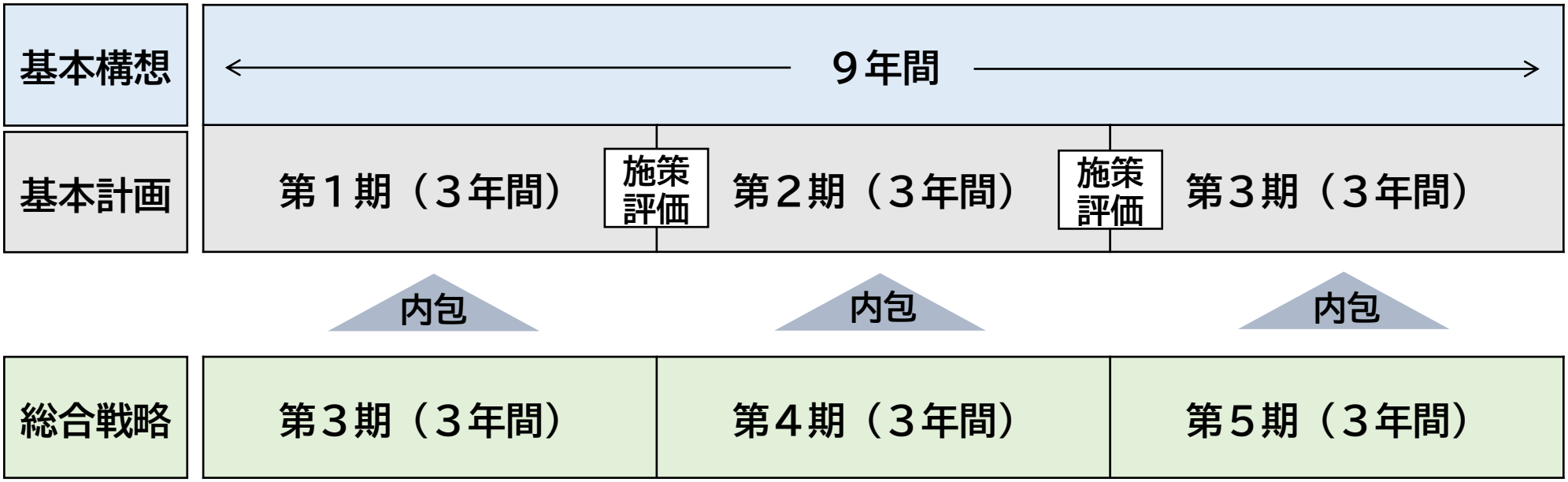
手段

第２章　総合計画の構成と期間

２　計画期間

基本構想は９年間とし、基本計画（総合戦略内包）は、３年ごとの３期とします。

総合計画 計画期間	令和 ９年度	令和 10年度	令和 11年度	令和 12年度	令和 13年度	令和 14年度	令和 15年度	令和 16年度	令和 17年度
	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年



第３章 まちづくりにおける問題

第２次総合計画のまちづくり施策に対する評価や市民の幸福度・暮らしの満足度を検証するとともに、今後の方向性を検討するため、市民意識・意向等を調査し問題点を整理しました。

アンケート調査	ワークショップ	基礎調査
成人、中高生、転出者、事業所からニーズや意向を把握	市民・団体・行政によるアイデアや解決策を聴取	国勢調査等の統計データをもとに人口等の動向を整理

浮かび上がった問題

問題１	問題２	問題３	問題４
地域との接点の減少などによる シビックプライドの希薄化	働く世代の減少による 地域経済の縮小への懸念	生活の利便性確保の難しさ	社会の仕組みや生活の変化による コミュニティの衰退

根幹にある大きな問題

- 少子高齢化に伴う人口減少
- 若者の高い転出意向

第２編 基本構想

第１章 まちづくりの将来像
第２章 人口ビジョン
第３章 まちづくりの数値目標
第４章 基本政策
第５章 基本構想の体系

第１章 まちづくりの将来像

大洲市がどのようなまちを目指すのかを示す『将来像』を次のとおり定めます

※　将来像とは、本市が将来どのようなまちを目指すのかを示す『まちづくりの最上位の目標』です。
　すべての分野の施策はこの将来像の実現に向けて進められ、市民・地域・事業者・行政が共通の方向性を持つための指針となるものです。

将来像

もっと、ずっと、大洲。
～肱川と人がつむぐ 住み続けたいまち～

込める想い

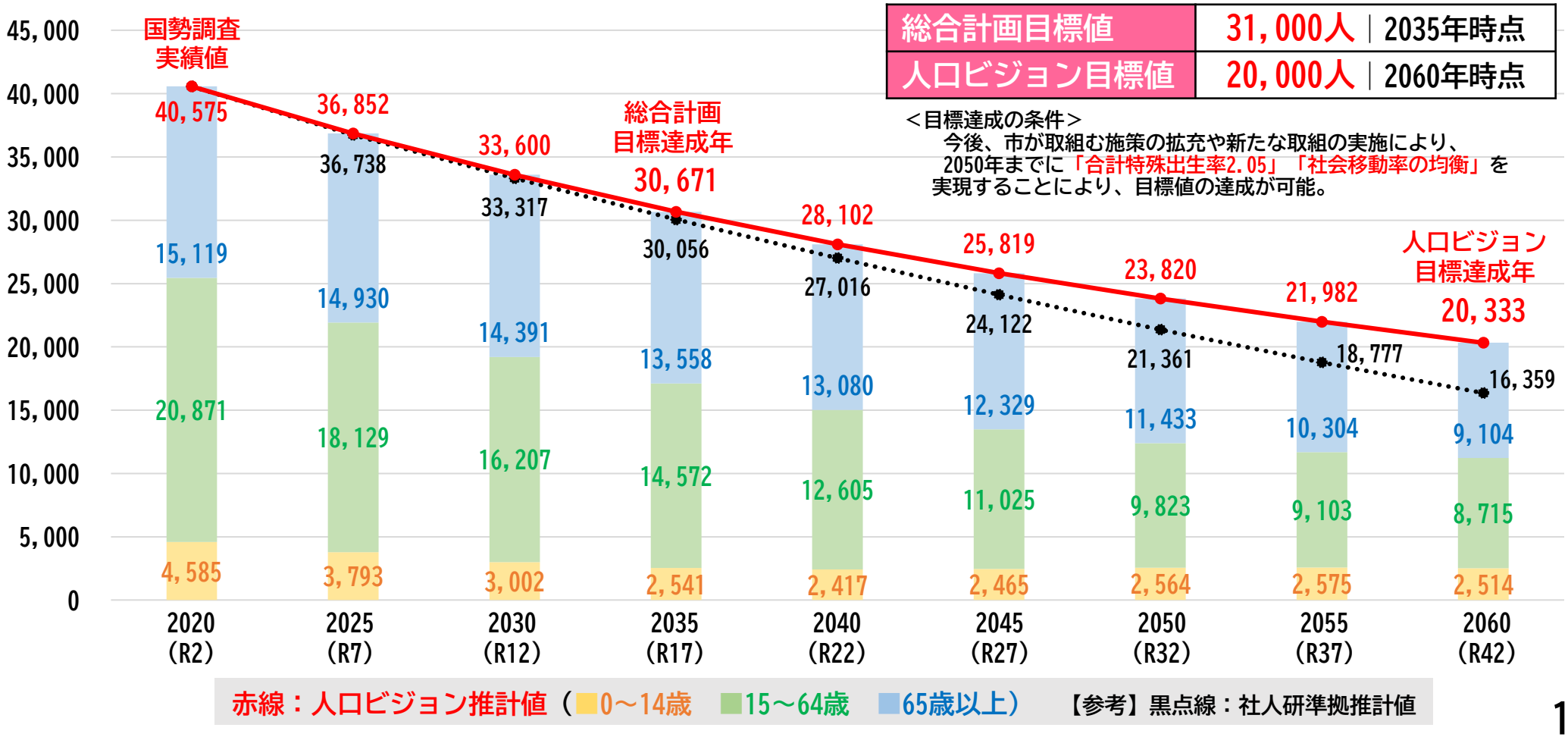
肱川の流れとともに城下町として発展し、水とともに暮らしを築いてきたまち、大洲。清らかな流れが織りなす風景や歴史ある町並みの中で、人と人が支え合いながら育んできた温もりや誠実さは、今もこのまちの力となっています。

肱川とともに、もっと幸せが広がり、ずっと安心して暮らせるまちであり続けるため、次の時代を担う若者が将来に希望を持ち、自らの可能性に挑戦しながら、「このまちで住み続けたい、帰ってきたい」と思えるまちとなるよう、私たちはこれからもみんなが力を合わせて、ここにしかない資源を生かしながら、新たな魅力の創出と課題解決に取り組み、大洲の魅力と誇りを未来へとつむいでいきます。

第２章 人口ビジョン

人口ビジョンは、本市の人口の現状を分析し、その認識を市民と市が共有するとともに、今後の方向性や将来の人口の見通しを示すものです。人口減少への「抑制」と「適応」の両面から施策を効果的に進めるため、最新の人口動向を踏まえ、長期的な視点に立った将来の人口展望を定めます。

※　社人研準拠推計では、2060年（令和42年）には人口が16,359人まで減少する結果となっていますが、深刻な人口減少と少子高齢化という厳しい現実を踏まえつつ、人口規模が縮小するなかでも行政サービスや地域コミュニティを将来にわたり維持できる「持続可能なまち」を目指し、2060年（令和42年）時点で20,000人を維持することを目標とします。



第３章 まちづくりの数値目標（KGI）

将来像の『実現度』を判断するために、
計画最終年（R17）の数値目標を次のとおり設定します

※　将来像を評価する指標として、数値目標（ＫＧＩ）を設定し、計画の成果を『市民評価』『統計的評価』の視点で、客観的に確認することとします。
＊ＫＧＩ（重要目標達成指標）｜本計画が目指す将来像の実現に向けた、最終的な目標を示す指標

目標人口 『計画最終年度の目標値』	**31,000人** （R7国勢調査【速報値】37,365人・R17社人研準拠推計値 30,056人）
まちづくり指標１ 『市民評価』	**幸福度７点・暮らしの満足度７点** （R7大洲市6.40点／全国平均6.44点）（R7大洲市5.82点／全国平均6.68点）
まちづくり指標２ 『統計的評価』	**20～39歳の人口 4,000人以上** （R7.9末時点 5,784人・R17社人研準拠推計値 3,881人）

第３章 まちづくりの数値目標（KGI）

数値目標の考え方

目標人口

31,000人 （R7国勢調査【速報値】37,365人・R17社人研準拠推計値 30,056人）

人口減少が進行する中で、将来にわたり持続可能で活力あるまちづくりを進めるため、長期的な視点に立った将来の人口展望を踏まえ、人口規模の目安として「目標人口」を設定します。

人口は、地域のにぎわいや雇用、行政サービスの維持、さらには地域コミュニティの存続に関わるものであり、まちの基盤を示す指標とします。

まちづくり指標１

幸福度７点・暮らしの満足度７点

（R7大洲市6.40点／全国平均6.44点）（R7大洲市5.82点／全国平均6.68点）

市民一人ひとりの豊かさや幸せの実感を把握するため、「幸福度」及び「暮らしの満足度」を指標とします。

幸福度や満足度は、経済的な豊かさや安全・安心感、人とのつながりや生きがいなど、市民の暮らしの質を総合的に表すものであり、まちづくりの成果を示す指標とします。

まちづくり指標２

20～39歳の人口 4,000人以上

（R7.9末時点 5,784人・R17社人研準拠推計値 3,881人）

これからのまちを支える「20～39歳（若年・子育て世代）」の人口規模を確保するため、本指標を設定します。

この年代は、就労や結婚、出産、子育ての中心となる世代であり、地域経済の活力や将来の人口構造に大きな影響を与えることから、まちづくりを支える重要な世代として、その人口規模を示す指標とします。

また、愛媛県が令和７年度に公表した「人口減少対策の方向性」においても、生産年齢人口の維持が重要との考え方が示されており、本指標はこうした考え方とも整合するものです。

第４章　基本政策

アンケートやワークショップ等での意見を踏まえ、将来像を実現するために必要な各分野の柱となる「基本政策」を定めます。

分野	基本政策
基本政策１ 子育て・教育	子どもが未来を信じ、もっと可能性を広げられるまち 安心して子どもを産み・育てられる環境の中で、地域・家庭・学校が力を合わせて子どもたちの成長を支えます。多様な学びや体験、挑戦をとおして、自分で考え行動する力を育てるとともに、子どもたちが将来に希望を持ち、自分らしく未来を信じて歩んでいけるまちを目指します。
基本政策２ 健康・福祉	ずっと自分を大切に、共に支え合い歩み続けられるまち 保健・医療・福祉を充実させながら、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが自分を大切に、共に支え合いながら、安心して暮らせる環境を整えます。健康づくりや社会参加の機会を広げることで、生きがいを育み、いきいきと暮らし続けられるまちを目指します。
基本政策３ まちづくり	安心と暮らしやすさを育む、ずっと住み続けたいまち 水と歴史が息づくまちとして、安心して暮らせる環境づくりや災害に強いまちづくりを進めるとともに、豊かな自然や歴史文化を大切に守り、生かしていきます。誰もが暮らしやすく移動しやすい環境を整え、人と人とのつながりを大切にしながら、次の世代へ受け継いでいく、ずっと住み続けたいまちを目指します。

第４章　基本政策

アンケートやワークショップ等での意見を踏まえ、将来像を実現するために必要な各分野の柱となる「基本政策」を定めます。

分野	基本政策
基本政策４ **産業・交流**	**情熱で「いま」を磨き、ずっと輝く「つぎ」を創るまち** 多様な主体が力を合わせて再生共創型のまちづくりを進め、地域資源を生かした新しい価値を生み出し、市外から人を呼び込み、産業の活性化と地域の経済力を高めます。情熱で「いま」の魅力を磨き、「つぎ」へとつながる産業や交流を創出し、人の流れとにぎわいを生み出すことで、誰もがここで働き、活躍できるまちを目指します。
基本政策５ **協働・共生**	**もっと人がつながり、共に希望を育むまち** 市民が主体となって、多世代交流やまちづくりを進め、世代や立場を超えて人と人がつながり、支え合う地域コミュニティを育みます。すべての人が尊重され、それぞれの役割や居場所を持ちながら、ともに学び合い、安心して暮らし続けられる希望あふれるまちを目指します。
基本政策６ **行政運営**	**もっとスマートに、やさしく信頼される行政のまち** 便利で使いやすい暮らしを支える仕組みとしてデジタル技術も活用し、手続きのオンライン化や作業の効率化を進めます。市民目線で利便性の高いサービスの提供と効率的な行政運営を実現し、限られた人材や財源を有効に活用しながら、将来にわたり人にやさしく信頼される持続可能な行政運営を目指します。

第５章 基本構想の体系

将来像／込める想い

もっと、ずっと、大洲。
～肱川と人がつむぐ 住み続けたいまち～

肱川とともに発展し、水と歴史に育まれてきた大洲の風土と人のつながりを大切にしながら、一人ひとりの幸せと住み続けたいという想いを未来へつなぎます。

また、大洲にしかない資源を生かした魅力の創出と課題解決に取り組み、誰もが希望を持ち、挑戦できる環境を育みます。

そして、もっと幸せが広がり、ずっと安心して暮らせる持続可能なまちを目指します。

R17数値目標／ＫＧＩ

計画全体

目標人口　31,000人

まちづくり指標

- 幸福度・暮らしの満足度　各7点
- 20～39歳の人口　4,000人以上

基本政策

基本政策１｜子育て・教育
子どもが未来を信じ、もっと可能性を広げられるまち

基本政策２｜健康・福祉
ずっと自分を大切に、共に支え合い歩み続けられるまち

基本政策３｜まちづくり
安心と暮らしやすさを育む、ずっと住み続けたいまち

基本政策４｜産業・交流
情熱で「いま」を磨き、ずっと輝く「つぎ」を創るまち

基本政策５｜協働・共生
もっと人がつながり、共に希望を育むまち

基本政策６｜行政運営
もっとスマートに、やさしく信頼される行政のまち

基本計画